

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 ライム倶楽部山下		
事業所名	グループホーム 来夢の家		
所在地	(〒238 -0046) 神奈川県横須賀市西逸見町1-38		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年1月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来夢の家では、地域との交流が盛んに行われている。年間を通して、季節の行事には協力し、参加出来れば利用者共に参加している。特に夏場の祭りや盆踊りは、地域との係わりが強く、神輿の休憩所になっており、賑やかで威勢の良い若い人たちが躍動している姿はとても美しいです。多くの人と関わる、そこが特にアピールしたい事項です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年11月27日	評価機関 評価決定日	令和6年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇家族との協力関係維持への努力 コロナ禍以後は家族親類や友人の訪問も増え、誕生日会には家族を招待して喜ばれている。一人ひとりの好きなケーキを前もって聞き、手作りすることもある。駐車場での花火大会に家族も招待して、一緒に楽しんでいる。家族へのお便りは、写真付きの「来夢日和」で、利用者の生き生きした様子が伝わるものとなっている。 ◇地域との交流 コロナ禍以降、地域との交流も増えてきている。地域の神社でのお祭りや豆まき、盆踊りに利用者が参加し、近くの保育園児が散歩の途中に寄って利用者と触れ合っている。駐車場で行なう花火大会には、近隣の住民も招待している。 【事業所が工夫している点】 ◇レクリエーションの工夫 ひな祭り、端午の節句、母の日、父の日、敬老会、十五夜、料理クラブ、ハロウィン、クリスマス会等の行事のほか、いろいろなレクリエーションを企画している。七夕ではを天井に星を映してプラネタリウムを楽しみ、スポーツ大会では綱引き、パン食い競争、リレー、ビンゴで利用者も熱くなり、文化の日の催しでは書道や折り紙製作で、利用者は文化的活動を体験している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	来夢の家
ユニット名	壱番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を開設当初より共有し、各ユニットに掲示しその理念に近づくように日々の介護業務に活かせるようにしている。	・利用者優先の理念は、職員の目に留まるように事務所に掲示している。 ・入職時だけでなく、日々のケアに生かすために、管理者は会議等で、理念を生かした実践を目指すよう常に職員に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナも第5類になり、地域の行事に少しずつ参加できるようにこのまま続けていけると良い。	・近隣の神社の祭礼では神輿の休憩所になり、盆踊りや豆まき、地区の納涼会にも利用者が参加している。散歩の途中で立ち寄る保育園の園児と触れ合っている。 ・駐車場で開催する花火大会には、近隣住民を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ期が終わり、面会も徐々に出来るようになり、外に出る機会も増えてきた。人とのふれあいを持つようにしたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ期により、会議が出来ていなかったが、少しずつ取り組みを再開し、意見を交わしてサービスの向上に活かしている。	・2か月に1度開催し、利用者、民生委員、町内会長、包括支援センター職員が出席している。活動報告をし、出席者からは意見や感想、地域の情報を得ている。 ・介護保険課には報告書を郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改定等での取り組みを通して、より良いサービスの提供に向けた、努力を続けていく。	・市の介護保険課、生活保護課、生活福祉課とは、手続き、補助金申請等で情報を交換するなどの連携をしている。オムツ、ヘアカット、布団クリーニング、施設の修繕に対する補助金の情報を収集している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	壱番館では、現在身体拘束が必要な利用者様はいません。月に1度の会議にて話し合いをして、職員間の理解を深めています。	・毎月のリーダー会議で身体拘束委員会を開き、研修でも身体拘束をしないケアを取り上げている。 ・昨年は、本人・家族の了解のもと、委員5名による身体拘束委員会で介護服着用の拘束を決定して実行したが、現在は解除となっている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で各フロアーでも話し合う機会を作っている。壱番館では、スピーチロックが日常的に多かった時期もあり、度々フロアー会議にて話し合うことにより減っていった。	・内部研修で虐待防止についてとりあげ、職員は理解を深めている。 ・毎月のフロア会議でも、スピーチロック等を議題にして話し合い、改善がみられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通じて施設内で内部研修を行い、スタッフ同士が共に学びあい理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に際し、契約書・重要事項説明書を説明して、理解を得るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍も落ち着き、ご家族との面会も出来るよう配慮し、ご家族からの要望や希望を話せるようになった。	・苦情体制については重要事項説明書で説明している。 ・家族の面会が事前連絡が不必要で時間制限もなくなって、家族からの要望を聞く機会となっている。利用者からはコロナ禍前のような外出イベントの希望があり、検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議や各月のスタッフミーティングにおいて、施設の運営について意見交換し、その都度説明している。	・リーダー会議やフロア会議で、職員の意見を聞き、運営に反映させている。 ・職員休憩場所のマンションの1室が倉庫代わりとなっていたため、職員意見により環境を整えて十分な休憩をとれるようにした。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、法人との意見をすり合わせ、賃金改定等の水準アップに心がけている。最低賃金を確保し、個人の貢献度や努力及び資格取得に向けた負担の軽減などの予防を伝える。	・処遇改善手当で、各人の貢献度や接遇・援助の工夫次第で支給額を変えることで、達成感を得られるようにしている。 ・資格取得のために、教育機関を紹介したり、講習時間を出張扱いにして、取得の後押しをしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個々の資格取得に向けた意欲を持ってもらい、必要と思われる知識を持つように努めている。内部研修では、時期に応じてタイムリーな題材を学び、業務に活かしている。	・新入職員には3日間ベテラン職員がついて指導をし、1日のやるべき仕事や注意点を壁に掲示している。 ・内部研修は2か月に1回、認知症ケア、プライバシー保護、法令遵守、事故防止、感染症予防等を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市内のグループホーム協議会の主催する研修や交流が不十分なので、今後も引き続き参加していくように努める。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様への入居準備として、入居後の希望や要望を直接聞ける時間として、聞き入れる。初期の係わりは、受容が主で、より良い関係づくりを目指す。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて利用されるご家族の施設に対する心配と不安の対策として、ご意見箱を設置して、いるが、十分には活用できていない。なので、情報の保護には十分心がけ、要望は積極的に応えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と十分な話をし、ご自宅での生活環境や今までの暮らしぶり、住環境、人間とのつながり、各サービスの利用状況等を伺い、ご本人の暮らしについて、明確にする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームへ入居して、介護を受ける者としての受け止めと生活を共に過ごす集合として、協同して暮らすよう努めるように関係性を高めていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームに入居後に、介護は全てお任せではなく、利用者様の生活の一部を支える一人として、共に支えるようにしていく。行事や個別の関わりに、関与して充実した生活を目指す。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においては、困難なことも多かったが、5類に移行され徐々に友達やご家族、親せきの皆様等と関わる時間を作る。特に地域の行事や団体との係わりや個別の友人の皆さんに、関係を持ってもらう。	・コロナ禍以後は家族親類や友人の訪問も増え、誕生日会には家族を招待して喜ばれている。一人ひとりの好きなケーキを前もって聞いて、手作りすることもある。 ・家族や友人へのプレゼントや手紙のやりとりの仲介をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ、居室で一人で過ごすことは避けている。孤立を助長するためと生活リズムの確立を促したい。全員ではなく、数人でもグループワークを行い、利用者様同士の関係を維持している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族との関係を維持するために、面会の機会を作っていただく。特に、行事の際にご一緒に過ごしていただくよう配慮する。近隣の施設を探している方々への相談や施設見学等にもつながっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の行動や表情等からご本人の意向をくみとりスタッフと話し合う、その人らしさを出せるようにし、困難な状況においては、カンファレンスを行い申し合わせる。	・日々の声かけや食事や入浴の際の会話の中から利用者一人ひとりの思いを把握している。 ・会話が困難な場合は、表情やしぐさから利用者の思いを想像するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活やご自宅の様子、気に居ている場所等、若いころの様子や趣味、好きなこと、楽しめること等、これまでの生活や生き方を、尊重してご家族とスタッフが共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、職員全員が利用者様の一人ひとりについて全身状態を把握して、自力のできる事柄には、積極的に参加していただけるよう働きかける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子やご本人様の意向や要望等を十分聞き入れ、毎月のフロアー会議にて、検討し介護計画を作成している。課題の達成状況の確認が十分ではないこともあるので、介護ではスタッフの意見を十分聞き入れる。	・入居前には、本人や家族の意向、それまでの暮らしをベースにケアプランを作成している。 ・入居後は3か月後、それから6か月毎に、フロア会議でモニタリングし、本人や家族の意向も聞きとってプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録を日々記録し、スタッフ同士が申し送ることにより、昨日のケアが今日の実践につながっている。少しの変化を伝えあって、計画を継続している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応があらゆるニーズを引き出すきっかけとなっている。関連性をしっかりと把握して、多様なニーズに対応していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、民生委員や知己包括スタッフ等との協力により、地域の社会資源の把握と暮らしを支えるサービスの支援を応援する。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科クリニックが往診をしており、利用者様個々の心身の状況を報告しながら良い状態を保っている。	・利用者全員が、家族の了承を得て、嘱託医と契約している。以前のかかりつけ医の精神科、眼科等には、事業所職員の付き添いで通院をしている。 ・医師の訪問診療は、内科医月2回、歯科医は随時となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との情報を共有し、利用者個々の心身の状態を把握している。変化があれば、医療機関への受診を実施する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入退院時の個人情報の伝達や施設での状況、心身の状況を確認に伝達し、退院時には施設で暮らす為の注意点を確認する。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期の考え方を入居の時にお知らせしており、元気なころから終末期に備えています。延命行為についても大切な判断の一つですので、ご家族の意思の確認を行っている。	・重度化の対応への事業所方針は利用者と家族には、入居時に説明している。 ・ターミナルケアに入る時は、医師、利用者家族、事業所管理者で話し合って、今後のケア方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の発生時の対応は、日頃からミーティングや研修で行っています。なかなか、その現場に合わない人もあり、実践的に行うことは難しいが、繰り返し行い養っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や火災等により、避難を余儀なくなるような場合に備え、避難訓練は定期的に行っている。水害や津波に関しては、施設の縦避難をすることになっている。	・避難訓練は夜間想定を含め、年2回実施している。地域の防災訓練には、呼びかけがあり、水消火器訓練に職員が参加した。 ・災害備蓄品は、BCPに則り、水・米・食料品等を備えている。備蓄品はリスト化しローリングストックとして、消費期限の管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
・						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格やプライバシーを尊重し、幼稚な言葉使いはせず、敬語を中心とした対応をする。プライバシーにかんしては、居室内は個人の空間としており、理をしてから入る。	・プライバシーの確保は、排泄時と入浴時に求められると職員に話している。トイレや浴室のドアを開け放しにしない事を徹底し、トイレや入浴時の同性介助にも応えている、 ・職員への「プライバシー保護」の研修を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々の希望や要望を聞き入れることを重視している。日頃の声掛けで、考えや今思っていることを言葉にさせていただき、できることは実行するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の暮らし方は、個人の考えを優先しているが、一人で居室で長い時間過ごすのは、避けている。一人では孤立してしまい、良いことがない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節によつての衣類の衣替えや寝具の変更等は、個々の好みがあり、時期によって相談して行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者に委託しているために、食事のメニューを変更するには、時間はあかかるが、要望があれば変更している。特に誕生会や行事の際は希望を取り入れ、共に準備している。	・調理は手作りにこだわっている。調理を手伝える利用者はいなくなったが、食後の食器洗いができる利用者はいる。 ・誕生会には利用者の好みのケーキを出している。誕生会には家族の参加を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材委託業者により、栄養面の表示や禁忌やアレルギー等の心配を事前に表示を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の衛生は、食後の歯磨きやうがい等を行い、口腔ケアに取り組んでいる。特に、義歯の洗浄や保管は大切なので、共に行っている。		
	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排せつパターンを把握して、時間で排泄の声掛けや誘導を行っている。おむつやパットを利用中の利用者様に関しては、タイプを理解して行っている。	・排泄管理表から利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行なっている。トイレ誘導時には大声での誘導は避けている。 ・夜間も時間でのトイレ誘導を行なっている。排尿量の多い場合は、吸収率の良いパンツを使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が3日出ない時に備え、日々チェックして、申し合わせている。下山に頼らず、生活の一部としての生活様式にて排便を促す。		
45	・	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週に2～3回のペースで行っている。タイミングや時間については、ご本人と相談して行っている。	・入浴は週2回、午前1名、午後2名で行なっている。湯船に入れない利用者にはシャワー浴をしている。 ・職員は利用者を見守りながら話をし、くつろいで入浴してもらえるよう計らっている。 ・同性介助には応じている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣によって、睡眠時間は人によって異なるが、だいたい寝る時間は同じような時間に寝ている。安眠の為に環境づくりや排せつ援助について、時間に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科や精神科の診察により、薬が処方され、薬の種類・内容・用法・用量等について把握している。特に、精神科の薬は、個別の暮らしに大きく影響するために、注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活の様子は、役割によって自室の清掃や廊下の清掃・食の配膳の移動等にご一緒にしていただき、責任感を保つこともしている。嗜好品等は近所のコンビニと一緒に買い物に出かけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、個々の要望によって、日常的な用品や嗜好品であり、コンビニに出かけている。近隣の保育園もあり、顔を出す。	・天気の良い日は、散歩に出て近くのコンビニで買い物をしたり、近くの菜園で、下草刈り、水遣り等をして芋・玉ねぎ・トマトなどの栽培をしている。 ・家族と外出し、食事をしてくる利用者がいる。	・利用者の体力維持のため、現在行なっていることを継続し、更に外出レクなどの企画が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を持ちたい人は、自分で管理をしてもらっている。買い物等はそこから出し、買っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話は、できるだけ多くの人をお願いしている。電話で話すことのできる人は、近況を話すことをよく考えている。一番良い頭の体操である。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別の環境づくりは、スタッフが担当して行っている。衛生的な備えや個別の飾り付け等も一緒に考え、季節の飾りつけも一緒に行っている。	・共同空間には、季節の飾り物（今はサンタクロースや雪だるまの人形）で季節感を演出している。 ・フロアの温湿度は温湿度計で確認し、管理をしている。清掃は職員が行なっている。大掃除は年2回行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにいと共に過ごす仲間がいる。負担にならない距離で、過ごす時間もある。テレビ等の活用も十分関係づくりに役立っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は、ご家族の皆様をお願いしており、タンスやベット等の配置は個々の生活行動によって、リスクを避けることもあって、共に考え時間もある。	・居室には、エアコン・ベッド・防炎カーテン・クローゼット・照明器具を事業者が揃え、利用者は時計・縫いぐるみ・家族の写真等馴染みの物を持ち込んで自室を作っている。 ・居室担当制を採っており、室内の掃除、温度調整は担当職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造によって、生活上の危険はないが、車椅子や杖が人によってリスクになり得る場合もあるので、置き場や使い方には十分気を付ける。		

事業所名	来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、作成した理念を職員の目につきやすい事務所に掲示し、管理者は、定期的なミーティングの際にスタッフに対して確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが5類に移行し、地域の行事も再開され、入居者様やご家族等と一緒に参加させていただいたり、施設主催の花火大会では、ご家族も交え交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者とユニットリーダーが中心となり、隔月の研修会にてグループホームの役割等について話し合いようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナが5類に移行されたことにより、当施設で開催されていた運営推進会議が再開され事業所から報告するとともに、近隣の代表者からの質問やご意見、要望などに応じ、せれを職員全員に周知する機会を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改革等での指導や説明を通して、当施設の現状を報告し、理解を得るように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	令和5年8月27日に「身体拘束委員会」を立ち上げ、1名の利用者に介護服着用による拘束を行っていたが、塗薬・湿布等の処置を続けてきたので、次第に書き壊し傷が減少してきたため、令和6年3月で解除とした。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、虐待防止について学習し、話し合う機会を作っている。特に言葉の暴力についてスピーチロックは日常の中に潜む虐待と理解するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間を通して、隔月でテーマを定め「内部研修」を行い、スタッフが共に学びあえる機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や制度改定時に十分な説明を行い、同意を得る努力をしている。日常の個別ケアについても具体的に説明し、ご理解を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への指導も徹底して行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているリーダー会議にて、各ユニットのスタッフから意見を管理者とユニットリーダーが話し合い、事業所運営に活かしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、スタッフの就業状況・会社への貢献度・介護の提供状況等を把握し、処遇改善手当への支給額を判断している。支給額に応じてやりがいを感じられる環境にしており、接遇と直接援助の小さな工夫をすることにより、達成感を得るようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるための教育は、個別に目指す資格取得に向けた手伝いをする。具体的には、教育機関の紹介や学ぶための時間を作り、受講費用の一部を補うようにしている。内部研修では、職員同士で教え、学びあう機会としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流やネットワーク作りに関して、新型コロナが5類に移行されたことにより、交流を再開する。外部研修の参加により、他施設の職員との交流が生まれるので積極艇に参加させ、他施設の取り組みを聞くチャンスとしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の初期に面接を通して、信頼関係を築き、受容を基本として傾聴する姿勢で接する。本人や家族の希望や要望を聞き入れ、不安を解消し安心した生活作りを目指す。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新たに入居される入居者様のご家族からの入居までの経緯や生活状況等を聞き入れ、施設での生活に反映するようにし、ご家族の不安を軽減する。希望や要望には積極的に応えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、必ず面接し入居希望者様とご家族からの希望や要望をお聞きし、そのうえで具体的なアセスメントにて評価して、プラン作成を行う。ご家族の同意を得て、介護に活かせるする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームに入居し、介護される側としてのみではなく、ご本人様の生活スタイルに即した、暮らしの仕方を考えていく。居室の日々の清掃に関して、衛生は自身で行うような日課を構築していく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、入居希望者様が入居すると縁が切れるような関係ではなく、生活の一部を共有し維持できるような関係を続けていけるようにするため、定期的な面会や、行事への参加を促していく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族でも関係が深い人やお孫さんや親せきの方等への声掛けをお願いしたり、行事では地域の友達や知り合い等に逢うような場づくり、誕生会等に招待したり、できるだけ一緒の時間を過ごせるよう配慮する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の生活リズムの違いを把握し、個性を理解しご自身の気持ちを尊重し、レクリエーションを行ったり、また、職員が仲介することにより入居者同士がうまく関係を築くことができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後でも、居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行うと共に介護方法や必要な物品の調達時についても助言できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情等からご本人の意向をくみ取り、日常の生活に活かしている。困難な状況では利用者様の立場に立って考え工夫している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から若いころの様子や生活感をお聞きして、施設での生活に活かせるよう努力する。居室も環境の整えについて努力する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が一人ひとりの全身状態を把握し、自力でできる事柄には、積極的に参加していただけるよう働きかける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の生活援助と介護プランの見直しのため、毎月フロアー会議を行い、課題評価やケア計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々時系列で記録し、職員の申し送りの際には一人の情報とあいて伝達していく。また、個々の情報は職員同士の共有とするために、申し送りを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時のニーズに応ずる体制づくりを行っている。急な病院受診やご家族の希望等も配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であることを心がけ、町内会の民生委員等の多くの皆様とご協力いただき、季節の行事に参加させていただいている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については、月に2度の往診があり、ご家族にも状況を報告している。その他は、精神科・歯科の往診はその都度往診して頂いている。それ以外は外来受診を個別の状況に応じて行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護職員は、週3日勤務し日々の利用者様の生活を介護スタッフより把握して、以上があれば内科医師に報告し、必要に応じて臨時の往診を受けるよう手配する。その他、必要な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の体調変化により入院された場合は、入院病院の医師よりご家族とともに病状を聞き入れ、退院に向けた努力を行い、情報の共有に心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される利用者様や終末期を迎えようとしている利用者様にとって、できるだけ早い時期に共通の理解として、説明し協力と同意をいただいている。施設では、医療行為ができないために、地域の医療機関と連絡を取り合い行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変については、個々の変化の状況を把握し、事前にご家族と話し合い、優先度を決めている。選択肢は、状況によって違うので緊急時に備えて、管理者等への迅速な報告を徹底している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時に、利用者様を守るための準備を整えている。火災の場合は、いち早く非難を行い、消防機関と協力して逃げる。災害時は、上階避難として、現在の施設で救助を待つことにしている。職員もそのように訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、個人の尊厳を大切にする。個人の情報管理、プライバシーの保護を怠らないようにする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中より希望や要望、思いなどを傾聴し、自己決定に添えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々により、一日の過ごし方が違うため、それぞれのライフスタイルに合った援助を希望により沿うように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台、共用洗面台、浴室に鏡があり、個人の身なりを整える最適な場所となっている。理容師が2か月ごとに来訪され、個々に合った散髪をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、食材業者の献立に沿ったメニューとなっており、カロリーや栄養面で安心している。提供形態も個々により変えている。食器は利用者様と共に洗う場面もあり、食べるだけの食ではない役割を感じていただくことにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材納入業者に栄養士がおり、1食単位のカロリーや栄養面で理解できる。アレルギーに対しても、代替えをしていただき、1日3食の食料や水分量を記録し、申し送りに役立てる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々により自身で歯磨きをしていただき、仕上げを職員が行っている。介助が必要な方は、職員が居室の洗面台にて行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄やパターンを把握し、個別の援助に努めている。時系列の記録もあり回数や量、形状等のご自身で何うことも確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排せつパターンを把握し、排せつ量と時間を確認する。生活サイクルの中で水分補給と適度な運動を心がけると共に、看護師に相談しながら内服薬の調整を行い、適切な排せつ援助を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、一人当たり週2回の入浴回数で行っている。基本は午後1時から3時までの時間内に入浴している。入浴はリラックスタイムの必要性から、入浴後はゆっくりと時間を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して安眠していただけるよう環境を整えている。夜間帯では、一人ひとりに合った時間の声掛けや排せつを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科の医師の往診が月2回あり、その時に服薬状況を伝え、必要に応じて薬の変更等もある。与薬時の間違いを予防するため、専用のケースを使用し、名前・回数・内容の確認をしている。また、ご自身で服薬が可能な人はご自身で見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意や不得意を把握し、出来る限り得意なことやお好きなことを活かして日々の生活を送っていただけるよう援助している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に花咲く時期をみつけて散歩しながら、買い物をしたりする。季節の移ろいを楽しんでいただいている。また、ご利用者様の希望の場所については、ご家族等に相談して希望に沿うよう努力する。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様に現金をお渡しすることはしていません。ご家族より、施設で預かり、その中から職員が変わって購入している。利用者様と共にコンビニに行くこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の代表電話を利用し、必要に応じて電話を活用している。郵便を利用する場合は、返信を書くよう援助しており、便せんやペンを用意して、関係を維持している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通して季節の花や飾りを装飾し、四季を感じていただけるよう努力する。個々に合わせてその方に合った空間作りも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファがあり、リラックスできるプライバシースペースとしている。高さや形状が違うので使用状況も違うと感じる。談笑する空間としては良い場所です。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシー保てる場所として、確保している。利用者様が安全にかつ安心して過ごせるようレイアウトして、個別の空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの認知度に合わせ、生活状況を判断し混乱を防いで安心を感じるような環境作りに努力している。そして、その人らしい生活実現にむけて支援する。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

来夢の家

作成日

令和6年12月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	コロナ過が4年も続き、ここ数年戸外に出る機会が減ったことは事実です。できるだけ、散歩と称して近隣のコンビニに出かけることはあったが、計画的に外出する機会が少なくなっていた。	近隣への散歩や買い物等は引き続き行っていき、目的を持った外出計画を立てて、ご利用者様のリフレッシュと共に、ご家族との外出目的のふれあいを行っていく。	ご利用者様の心身の状況により、体力の向上を見込み計画的な外出を増やしていきたい。特に急な外出によってご利用者様の負担とならぬように配慮し、近隣への散歩等は続けていき、個別の外出の機会（誕生日には好みの美味しい物を食べに行ったり、花見の時期には弁当をもって外で食べるなど、非日常の特別感を楽しんでも頂けるようなワクワクしたものでありたい。	気候など考慮して、半年～一年間の無理のないように実施していきたい。
2					
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2）項目数が足りない場合は、行を追加すること。